## 行政視察活動記録

教育民生常任委員会 委員長 川田 礼子

年 月 日	平成26年7月31日 から 平成26年8月1日 まで
	長野県茅野市 組合立諏訪中央病院
場所	市民病院のあり方について
及び目的	岐阜県瑞浪市立瑞浪幼児園、瑞浪市議会
	学校再編について及び保育所の再編について

_	
年 月 日	平成26年7月31日
相 手 方 及び目的	長野県茅野市 組合立諏訪中央病院 「市民病院のあり方について」 (ボランティア活動を含むチーム医療と病院経営について)
内容・	【病院の概要】 基本理念:やさしく、あたたかい、たしかな医療を目指す医療目標:①充実した救急医療 ②安全な医療 ③患者さんの権利を尊重した、思いやりのある医療 運営:茅野市(約5万5千人)、諏訪市(約5万人)、原村による一部 事務組合 病床数:一般 315床、療養 45床、計360床(内訳)一般 261床、緩 和ケア9床、回復期リハビリテーション 45床、療養 45床付属施設:ドック・健診センター、東洋医学センター、訪問看護ステーション、ほのぼの透析クリニック(JR茅野駅前に設置)併設施設:介護老人保健施設(入所50人)、看護専門学校(3年課程3学年、学年定数40人)、介護老人福祉施設(入所90人)診療科目:全21科職員数:654人(うち医師83人、名誉院長は鎌田實氏)
	諏訪中央病院の事業会計は、医業収益等が増えており、経常収支 比率等、一般会計からの繰入金を差し引くと長野県内では一番よい。 平均在院日数は16.1日で、病床利用率は85%を超え、副看護師長 をベッド管理に配置し、効果的なベッド管理の徹底に努めている。 臨床研修指定病院として研修医の育成に力を入れており、初期研

修医は2年、後期研修医は3年、計5年間で院内の主な診療科をまわり、総合診療医等のベテラン医師が指導医となっている。後期研修医は救急当番医としても活躍し、継続して常勤医として残る割合は高く、医師確保の上でも成果はあがっている。あわせて医師確保においては、院長が動くことで良い結果を得ている。また、諏訪中央病院看護専門学校の学生は、毎年、定員約40人のうち半数程度が諏訪中央病院に就職し、看護師確保には苦労していない。

伝統ある「ほろ酔い勉強会」では多様なテーマを選定し、参加者 に病院の診療情報の公開、保健衛生に関する生涯学習の場を提供す ることよって、病院の現状や考え方を市民等に広く理解してもらっ ている。

医療の安全と質の向上のために、職種の枠を超えた組織横断的な 医療を大切にしている。特に「クリニカル・パス (入院から退院ま でのスケジュール表をもとに効率的な治療やケアを行うこと)」を進 めることで、医療の質が保証されるとともに、チーム医療も推進さ れ、質の高い医療を提供できる。結果的には医療費削減、在院日数 の短縮など病院経営も改善され、患者にとっては、入院中の経過や 診療内容がよくわかり、安心して医療が受けられることから、普段 からチーム医療の実践を目指している。

新人職員の研修は、長野県の接遇研修会にバス 1 台を出して参加 し、看護師は 3 年程度のローテーションで異動させ、いろいろな勉 強を積み重ね、接遇向上を図っている。また、苦情対応は、「医療メ ディエーション研修(医療スタッフと患者との仲立ちをする手法の 研修)」を 5 年前から実施し、部長クラスの医師も含めて初期研修を 受け、現在は 100 人程度が受講済みで効果をあげている。

人工透析は、外来患者中心に1日2クール、月曜から土曜まで実施し、夜間透析も実施している。また、JR茅野駅前にクリニックを併設し、患者サポートをしている。

救急患者は「断らない」、「まず診ましょう」、「基本 24 時間対応」を目標として掲げ、「生きるか死ぬかの時最も信頼される病院」を目指して救急医療のレベルアップを図り、住民の要望にしっかり応えている。

施設の大規模改修中で院内視察はできなかったが、ロビーに温か みのある絵画等が展示され、グリーンボランティアが活発に活動し て癒しの空間が随所に作られ、人にやさしい病院であった。

健全経営のもと、病院の理念と目標を明確に掲げ、その目標達成に向けて医療スタッフが一丸となって不断の努力を重ねていることが随所に覗えた。さぬき市民病院が学ぶべき点も多く、1人でも多くの市民に必要とされ、支えられ、地域になくてはならない病院となるように、一つからでも取り組んでいただきたいと願うものである。



備考

(参加者)教育民生常任委員会委員7名(1名欠席)、 さぬき市民病院経営管理局1名、教育委員会事務局1名、 健康福祉部1名、議会事務局1名 計11名

_	
年 月 日	平成26年8月1日
	岐阜県瑞浪市民生部社会福祉課(子育て支援室)、
相手方	教育委員会事務局学校教育課、瑞浪市立瑞浪幼児園
及び目的	「学校再編について及び保育所の再編について」
	(幼保一体化について)
	【瑞浪市立瑞浪幼児園視察…20 分】
	園児数:138名(3歳児44名、4歳児40名、5歳児54名、6クラス)
	保育内容:3~5歳について、幼稚園児(教育部)と保育園児(保育
	部)が同じクラスで一緒に生活し、教育及び保育を行う。
	職員数:21名(正規職員8名、臨時職員13名)
	★視察当日は、幼児園児(教育部)は夏休みで休園、保育園児(保育部)
	64 名が登園しており、元気に園庭でプール遊び、リズム遊び等を楽
	しんでいた。小学校と隣接しており、5歳児は小学校のプールを利用
	するなど、一貫した幼小連携を推進。平成25年に増改築費用約2億
	円で、給食調理室、遊戯室、絵本の部屋等を既存の平屋建て園舎に
	増築し、大規模改修したことで、充実した環境の中で保育が行われ
	ていた。
	【瑞浪市役所議会第一委員会室にて、伊藤明芳民生部長他担当職員
	か説明を受け、その後質疑応答…1 時間 30 分】
内容・	★瑞浪市は、公立幼稚園の数が3園と少なかったことから、幼稚園
上 結果等	と保育園の施設の共有化及び平等で効率的な運営を確保するため、
78213 3	平成9年に幼保問題等研究会を設置。平成16年4月に構造改革特区
	の承認を得て、市内9園のうち6園で5歳児の合同保育(幼保一体化)
	を実施。現在は全ての公立園(幼児園)で3歳児からの幼保一体化
	を完全実施している。
	☆瑞浪市(人口:約39,400人)
	☆公立幼児園数:8園(瑞浪幼児園:3~5歳児、1園:生後 57日~
	5 歳児、6 園:生後8ヶ月~5 歳児)
	☆私立保育園2園、私立幼稚園1園
	★ 幼兒 一体 化 の 東 娄 内 宏
	★幼保一体化の事業内容、推進体制は、教育・保育期間(日課、長期は明) 党級領域 聯員の勘路体制等 エキが終らされており土変
	期休暇)、学級編成、職員の勤務体制等、工夫が凝らされており大変   動強になった
	勉強になった。
	給食は、全幼児園内に給食調理場が完備され、幼児園の子供は教

育部・保育部の別なく、行事食や食物アレルギーを持つ子に対して、

一般事務関係の窓口を一体化しており、民生部社会福祉課子育て 支援室は、保護者が行う諸手続き(入・退・転園に関すること)、一

きめ細やかな対応がなされていた。

般事務(保育料・授業料・各種届け出書類の受付)、施設の安全管理 に関すること、園長会・主任会(事務関係)を行う。

教育委員会学校教育課は、教育内容や指導に関すること[就学前教育、園運営、園経営、家庭教育、保護者の教育に関すること、園長会・主任会(研修に関すること)、幼稚園教育課程研修会、教育長訪問等]を行う。

職員は、幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を有する者を採用しており、正規職員のみがクラスを担当している(正規 63 人、臨時 78 人: 育休含む)。

- ★保護者の意見は、「市民のニーズに応えている」、「同じ園内で幼稚園児(教育部)と保育園児(保育部)を選ぶことができ、年度途中においても変更できるので、家庭の事情が変わった時に助かる」など概ね好評である。
- ★幼保一体で生じるメリットがデメリットを上回っていた。 《メリット》
- ・保護者が保育園、幼稚園を就労の状況に応じて選択できる。
- ・一般事務部門と指導部門を明確にしたことにより、統一化ができ 混乱がなくなった。
- ・市内公立園の足並みがそろった。
- ・園長会・主任会が一本化され、指導部門が教育委員会に統一され たことにより、より質の高い教育・保育の提供と職員の質の向上 につながってきている。
- ・14:30 以降(教育部降園後)の時間や教育部夏休み期間中は保育部の子ども達に対してじっくり対応ができ、生活の見直しや情緒の安定につながった。

## ≪デメリット≫

- ・国レベル(文部科学省・厚生労働省)、県レベル(県教育委員会・子ども家庭課)が一本化されていないので、事務・調査等が煩雑になっている。
- ・保育園児が遅くまで残っているので、全員揃っての職員会議や研 究会を行うことが難しく、研修をする時間の確保も難しい。

地域の実態に即した就学前保育事業(幼保一体化)を実施しており、幼稚園・保育所の良い所を上手にすり合わせて子育て支援の充実を図っている。少子化が進むさぬき市においても、今後の幼稚園及び保育所の統合に関して学ぶべき点が多々あり、本市の特色を活かした幼保一体化を検討していく上で大変参考になる事例であった。



備 考

(参加者)教育民生常任委員会委員7名(1名欠席)、 教育委員会事務局1名、健康福祉部1名、さぬき市民病 院経営管理局1名、議会事務局1名 計11名